

北海道から伊豆諸島
大津波警報

仙
台
中
継

we support ↓

RQ
災害教育
センター

MONTHLY

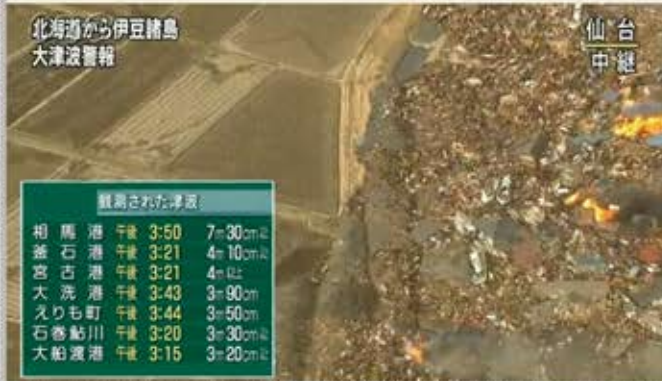
「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』しんぶん
かめぼん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

MARCH
11
2015

私たちは、私たちの記憶を

2011年3月11日に見たもの、感じたことを忘れない



北海道から伊豆諸島
大津波警報

仙
台
中
継

観測された津波		
相馬港	午後 3:50	7m 30cm
麻石港	午後 3:21	4m 10cm
宮古港	午後 3:21	4m
大洗港	午後 3:43	3m 90cm
久りも町	午後 3:44	3m 50cm
石巻船川	午後 3:20	3m 30cm
大津波	午後 3:15	3m 20cm

上) 名取川を遡上する津波と、海岸からの津波が並行して走る映像。『津波は川を10kmも遡ります。海の見えない土地でも油断せず避難してください』という呼びかけが繰り返されていた。

中) 水路を越える濁流。大きな漁船や車、建物が押し流される様子、流出した油に引火して、燃えさかりながら流れてくる(油は浮くので、浸水しても消えない)様子などが克明に映し出される。

東日本大震災発災の日、テレビのニュースで見た津波の光景は衝撃的なものでした。自然災害の猛威に圧倒されると同時に、現地から遠く離れた場所でそれを見ているしかない歯痒さや、内地に住む親類や友人たちと連絡がとれないことへの不安などに苛まれながら夜明けを待ったことが思い起こされます。当時のニュース映像(宮城県名取市、名取川を遡上する津波の中継)を見返してみると、あのときに感じた不安と恐怖がありありと甦ってきました。実際に地震と津波を体験したわけではないけれど、「中継を見ていたときに感じた気持ち」は、ささやかながら私たち自身にとってのリアルな「震災の記憶」にほかならないのだと気付きました。

下) 畑を飲み込んでいく黒い波の速さに改めて恐怖を感じる。(写真は3点ともNHK)

北海道から伊豆諸島
大津波警報

仙
台
中
継



3月は、テレビでもその他の報道でも、震災を振り返る企画が多くなります。津波の映像は恐ろしく、見るのが辛いものですが、自らの「震災の記憶」を新たにすると同時に、被害の広がりかたや避難の方法などの情報を再確認するよい機会になります。被災地のこと、がんばる東北の仲間のことを忘れないのと同じように、震災そのものの記憶も忘れてはならない。4年の節目を迎えるにあたり、そんな思いを強くしています。

東日本大震災から4年が経過しました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興と、これからの日々の平穏をお祈りいたします。 平成27年3月11日 西表島エコツーリズム協会